

団体名	団体URL	団体の活動概要	研究の受け入れ(自主的なテーマを持つ卒論生等の受け入れ)	調査の受け入れ(定期的な実施している調査の手伝いと研修)	保全作業の受け入れ(定期的な実施している保全活動の手伝いと研修)	研究テーマの提供	実施場所	実施期間	時間帯と頻度	宿泊の提供	研究資金の援助	アピールポイント他	過去の受け入れ事例	受け入れ担当者
宮島沼水鳥・湿地センター	http://www.city-bibai.hokkaido.jp/miyajimanuma/index.php	ラムサール条約湿地「宮島沼」の保全と活用、各種調査活動、湿地間の連携活動など	○	○(ガンカモのカウント、センス)	△(定期的に実施している作業はまだない、外来種対策などプロジェクトを立ち上げてほしい)	△(所属大学との連携を希望、調査協力や研究内容への専門的助言は可能)	宮島沼周辺、石狩川流域	主にマガンの飛来期(4月、9-10月)	要相談	○センターのロフトで寝泊まり可能(シャワー室あり)、長期滞在住宅について検討	△(マガン食害対策関連)	マガンの食害対策、水環境保全、地域農業との調和が優先課題。自然科学、人文・社会科学問わず。米は地元農家から配給!?パンダーとの連携あり。年一回、関係研究者等で宮島沼研究発表会を実施。	北大、酪農学園大学の卒論生や修士生など。主にマガン研究、水質科学研究。	牛山克己 mwwc@dune.ocn.ne.jp
霧多布湿原センター	http://kiritappu.mond.jp/center/	ラムサール条約湿地「霧多布湿原」の保全、環境教育、エコツアーの開催。浜中町の観光の促進。	○	○霧多布湿原以外の周辺エリアの鳥の調査	○外来種の駆除 鳥以外の活動も可能であれば、その他ボランティア作業も対応可能	△(所属大学との連携を希望、調査協力や研究内容への専門的助言は可能)	浜中町内、霧多布湿原周辺	4-11月	要相談	△(紹介・調整は可能)	○(学術助成制度あり)	車の貸し出し可能(MT車) / 普及プログラムや展示などビジターセンター業務に携わることも可能	北大、北海道教育大、JICA研修生、立教大、東京農大、自然、環境教育、エコツアーズム	飯野真人 ban@kiritappu.or.jp
(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	http://izunuma.org/	ラムサール条約湿地「伊豆沼・内沼」の保全、各種調査研究、普及啓発	○	○(ガンカモ類の調査、魚類関係の調査)	○(外来種駆除や植生管理作業)	△(所属大学との連携を希望、調査協力や研究内容への専門的助言は可能)	伊豆沼・内沼周辺	通年	要相談	×(紹介可能)	×	国内最先端の外来魚防除技術、鳥類をはじめとするさまざまな生物群の基礎研究の蓄積、研究報告および研究会	東京農大、石巻専修大、宮城大など卒論生、研修生、博物館実習など。主に水鳥の生態研究や外来魚駆除など	嶋田哲郎 tshimada0423@gmail.com
米子水鳥公園			○	○ガンカモ・カワウのカウント ○園内での鳥類標識調査	○ヨシ刈り作業					○センター内に和室とシャワー室あり	×	シミセンニューウ、コヨシキリの中継地/夏季には、調査用ポートが利用できる。	鳥根大学、鳥取大学、米子高専の卒論・博論生、水質と水鳥、鳥インフルなど	神谷要 anet@sanmedia.or.jp
クッチャロ湖水鳥観察館	http://www.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp/	ラムサール条約湿地「クッチャロ湖」の保全と活用、各種調査活動、普及啓発と環境教育、湿地間の連携活動など	○	○ガンカモ・ワシ類のカウント ○町内での鳥類標識調査	△(定期的な実施している作業はまだない)	△(所属大学との連携を希望、調査協力は可能)	クッチャロ湖周辺及びその周辺(ベニヤ原生花園・頓別原野・ボン沼)	主に白鳥の飛来期(3-4月、10-11月)及び秋の小鳥類の渡り時期(9-10)	要相談	△(紹介・調整は可能)	×	バンディングステーションがあり、道北の夏鳥、水鳥の標識調査が可能/標識調査では、宿泊可/夏季には、調査用ポートが利用できる/調査時期によっては、モガニが食べれるカモ	主に研究者(東大、米国USGS)の調査協力など	小西 敢 mizudori@mai.tsu.hokkaido.jp
公益財団法人ホシザキグリーン財団			○(ケースバイケースのため要相談)	○(ケースバイケースのため要相談)	△(定期的な実施している作業は僅か、作業従事はケースバイケース)	×				×	×	地域の自然(野鳥、昆虫、植物、魚類等)を調査研究しているホシザキ野生生物研究所、野鳥観察舎がある普及啓発施設として穴道湖グリーンパーク、体験学習型の水族館である穴道湖自然館の管理運営をしています。	鳥類関係では鳥根大学の卒論生などから個別の相談対応程度。	森茂晃 hgf-mori@green-f.or.jp
サロベツ湿原センター(NPOサロベツ・エコネットワーク)	http://www.sarobetsu.or.jp/center/	利尻礼文サロベツ国立公園・ラムサール条約湿地、「サロベツ原野(湿原)」の保全、普及、各種調査、自然再生事業の推進など	○	○ガンカモ・ワシ類のカウント(風車建設予定地含む) ○一般鳥類	○外来種駆除、植樹作業、海岸・湖沼の清掃、木道ボランティアガイド等	△(所属大学との連携を希望、情報提供・助言等の調査協力は可能)	サロベツ湿原およびその周辺地域(稚内市・豊富町・幌延町)	通年	研究者側に任意に設定可能	○法人事務所(2DK)に無料宿泊可能(台所、風呂、寝具、ネット環境等有)、他の研究者との共同利用	△(要相談。研究内容によっては一部助成を検討)	国立公園に指定されている優れた自然があり、山手線の内側よりも広い湿原と、森、川、沼、海など多様な環境に豊富な鳥類が生息。サロベツにおける鳥類の調査研究は未開拓の部分も多く、テーマは無限、やりがいが大。地域の人からサケ(酒も?)の差し入れあり。	鳥類関係ではないが、湿原の調査研究は北大等の学生、研究者により様々な行われている(直接的指導はしていない)。インターシップ等の受入はセンターで毎年実施(北大、日大、法政大)。	嶋崎暁啓/長谷部真 center@sarobetsu.or.jp
NPO法人リトルターン・プロジェクト	http://www.littletern.net/	絶滅危惧種コアジサシの保全のための営巣環境整備、調査研究、普及啓発活動、ネットワーク構築のための交流活動を行っています。	○	○	○	○	森ヶ崎水再生センター(東京都大田区)ほか	整備作業3-4月、営巣調査5-8月、ほか	1日または半日、9時頃~18時頃など	×	△	絶滅危惧種コアジサシの営巣環境や繁殖生態について学べます。関連団体との交流ができます。内容によっては卒業研究、修士研究などのフィールドを提供できることもあります。	ボランティア:毎年述べ200-300人 北村亘、奴賀俊光ほか tyousa@littlern.net	